

経営管理と R&D 活動  
— 日韓比較を通して —

宮川 努 (学習院大学)  
Kim YoungGak (専修大学)  
Jung Hosung (三星経済研究所)  
枝村 一磨 (科学技術政策研究所)

要旨

本稿は、2008 年、2011–12 年に日韓両国で実施された経営管理に関するインタビュー調査をもとに、両国の組織管理、人的資源管理などを比較するとともに、こうした経営管理が、研究開発行動にどのような影響を与えるかを考察した。インタビュー調査の結果から得られた経営スコアを見ると、日本の経営スコアは、全体的に韓国の経営スコアを上回っているものの、韓国の 2 回目のスコアが 1 回目のスコアを上回ったため、第 2 回調査における日韓のスコア差は縮小している。このインタビュー調査を使って、経営スコアと研究開発行動に関する関係を実証的に検証すると、日本の企業に関してはおおむね経営スコアの高い企業では、研究開発が行われていることが確認できたが、経営スコアと研究開発支出の間に有意な量的関係は見られなかった。一方韓国では、むしろ企業規模が大きいほど研究開発を実施する可能性が高い。

**Keywords:** 経営努力、組織管理、人的資源管理、研究開発、Probit 分析、Tobit 分析

**JEL Classification Numbers:** L21, L22, O32, O33